令和8年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

令和8年9月 備前市教育委員会学校教育課

目的：◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
実施日：令和8年4月23日（木）
実施校：市内小学校10校 第6学年児童190人
市内中学校 5校 第3学年生徒181人
調査：◇教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）
◇学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

1 学力調査結果の分析

<小学校>

【国語】

全体的には全国の正答率を下回っていた。

話や文章の種類とその特徴について理解することができるかをみる問題では、正答率が県・全国とほぼ同等であった。児童質問「5年生までにうけた授業では、国語の授業で、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていましたか」「5年生までにうけた授業では、国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていましたか」の項目で肯定的に回答している割合が県・全国よりも高く、自分の考えを工夫して書いたり、理解したことをもとに考えをまとめたりする学習を国語の授業の中で意図的に取り組んできた成果だと考えられる。

一方で、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題では、「短い」「不思議」どちらも正答率が県・全国を下回り、解答類型以外の回答や無回答率は県・全国よりも高かった。児童質問「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」の項目では、1時間以上と回答した割合は県・全国と比べて低く、「全くしない」と回答した割合は県・全国より高かった。「国語の授業の内容はよく分かりますか」の項目における肯定的な回答は県・全国とほぼ同等のことから、学習内容の定着に課題があると考えられる。

【算数】

全体的には全国・県の正答率を大きく下回っていた。

立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる問題では、正答率が県・全国を大きく下回っていた。立方体は、一辺の長さによって体積が決まることから、一辺×一辺×一辺という公式で求められるが、正方形の面積を求める式を書いている割合が高く、体積の概念理解が不十分であることが考えられる。また、整数と小数の減法の計算をすることができるかどうかをみる問題においても、正答率が県・全国を大きく下回っていた。本設問では、6.37−5（小数から整数を引く減法）と5−3.76（整数から小数を引く減法）

の計算について、小数点をそろえて位ごとに計算したり、0.01の幾つ分とみて637－500や500－376の整数の減法に帰着して計算したりすることが必要である。特に、5－3.76において、誤答率が高く、解答類型から、計算の意味を理解せず、数字の操作に留まっていることが考えられる。

該当学年の経年変化を見取るために、昨年度の岡山県学力学習状況調査の結果と比べてみると、全国平均との差は、国語2．6ポイント、算数3．3ポイント縮めていることが分かる。「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の項目において肯定的な回答が県・全国よりやや高く、校内研究を軸に授業改善を図ってきた結果だと考えられる。しかし、国語、算数ともに、基礎的な知識・技能をみる問題において課題が見られ、生きて働く知識・技能の習得、基本的な概念理解の定着が図れるように、個別学習、繰り返し学習、習熟度別学習、補充的な学習など個に応じた指導の充実が必要である。そのためにも、児童ひとりひとりの学びの確実な定着に向けて、学校と家庭が一層連携していくことが大切であると考える。

＜中学校＞

【国語】

全体的には全国・県の正答率をやや下回っているものの、ほぼ同等の正答率だった。

目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるかをみる問題では、正答率が県・全国をやや上回っていた。生徒質問「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の項目で肯定的に回答している割合が県・全国よりも高く、国語科の授業だけでなく、情報を集める、整理する、伝え合う、話し合う等の活動を意図的に取り組んでいる成果だと考えられる。

一方で、記述式の問題が3問出題されているが、どの問題においても無回答率が県・全国を上回っていた。条件を満たしながら自分の考えを書く活動を一層工夫する必要があると考える。

【数学】

全体的には全国・県の正答率を下回っていた。

箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかをみる問題では、正答率が県・全国をやや上回っていた。

一方で、反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、xの値に対応するyの値を求めることができるかどうかをみる問題や、同類項の意味を理解しているかどうかをみる問題など、基本的な知識・技能を問われる問題における正答率が県・全国を下回っていた。

生徒質問「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」の項目では、1時間以上と回答した割合は全国と比べて約8%低く、授業時間以外に学習の時間を確保することが困難な生徒が多いことが分かる。

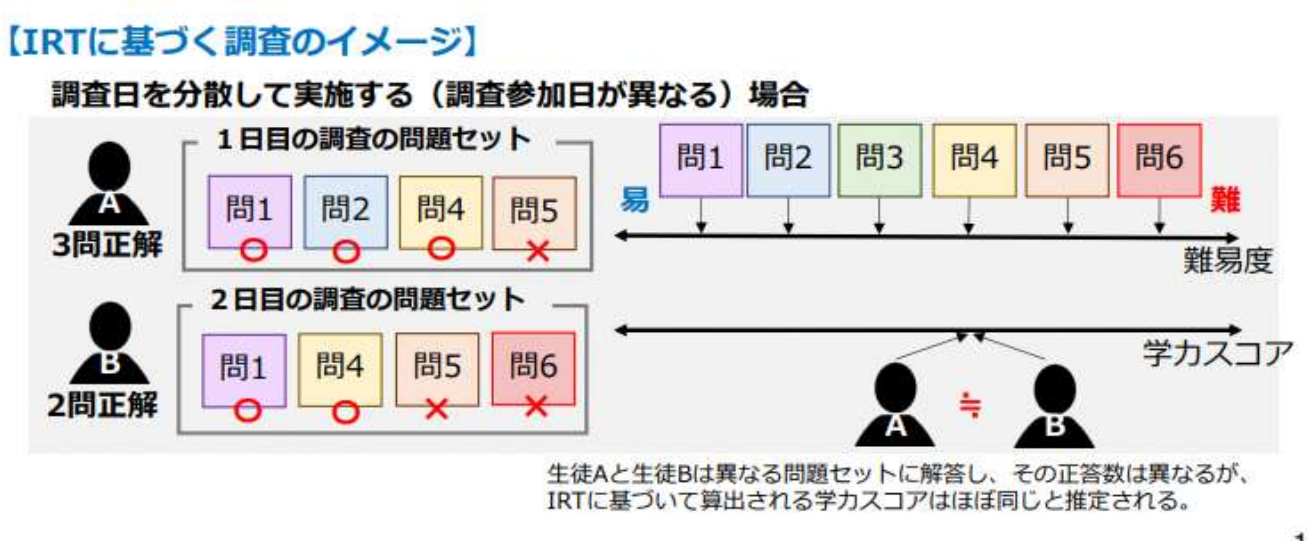
このようなことから、小学校と同様に、数学的活動を通して、意味理解を図る授業の一層の工夫と、授業と家庭学習を連動させ、学びの確実な定着を図ることが必要であると考える。

【英語（3技能）】

今年度の英語の調査は、一人一台端末を活用したCBT方式で実施された。生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論(IRT)に基づいている。問題は、公開問題と非公開問題を組み合わせて構成されている。公開問題には全日程に共通する問題と実施日により異なる問題があり、同じ調査日に実施する生徒は同じ公開問題のセットを解くことになっている。非公開問題は幅広い内容・難易度等の問題を出題しており、生徒ごとに異なる問題を解いている。結果については、IRTに基づいてIRTバンド、IRTスコアで示されている。

※IRTスコア：IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

※IRTバンド：IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもの。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる。



全日程共通する7問の平均正答率は3．3で、全国の平均とほぼ同等であった。

また、平均IRTスコアにおいては、全国の平均スコアを16下回っていた。

全日程に共通する問題のうち、選択する問題に比べて、書く（タイピング）問題において正答率が低く、また、無回答率が高い傾向が見られた。生徒質問「1・2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の項目においては、日常的（週3回以上）と答えた割合が、全国よりも低かったが、「キーボードを使って英語を書くことができますか」の項目においては、肯定的な回答が県・全国とほぼ同等だった。紙でも端末でも同様に力が発揮できるような指導の工夫が一層必要だと考えられる。

2 学校及び市教育委員会の取組

〇授業改善及び計画訪問の実施による校内研修体制の一層の充実

・中堅教諭の指導力を発揮した校内研修体制の構築

・中堅教諭と指導主事が協力した若手教員の授業力向上を中心とした学校の組織力向上

・学力向上の取組と校内研究・研修を連動させた学習内容定着を図るためのPDCAサイクルの構築及び検証

・授業改革推進員、指導教諭と連携した授業改善の取組の推進

〇ICT環境の活用と「個別最適な学び」の推進

・個別最適な学び及び基礎・基本の定着に向けたAIドリルの活用推進

・学習者用デジタル教科書の活用推進

〇確かな学びの定着に向けた効果的な学習機会の確保と家庭との連携

・朝、昼、放課後等を有効に活用したモジュールによる補充学習の推進

・家庭と連携し、授業と連動した家庭学習の内容充実と習慣化を推進

〇中学校区単位での学力向上に向けた小中一貫した課題解決の推進

・中学校区単位での学力的課題に対する共通理解と組織的対応

〇備前市教育研修所における授業研究の充実

〇地域と連携した教育の土台づくり

・地域学校共同本部、コミュニティースクールを活用して学校の課題を改善していく仕組みの構築

3 学力調査（教科に関する調査）

（1）平均正答率

【小学校】	国語	算数
備前市	55	47
岡山県	62	55
全 国	60.9	56.4
県比較	▲ 7	▲8
国比較	▲5.9	▲ 9.4

【中学校】	国語	数学	英語 IRT スコア
備前市	61	51	483
岡山県	65	57	495
全 国	63.9	57.0	499
県比較	▲4	▲6	▲12
国比較	▲2.9	▲6	▲16

※英語共通問題の平均正答率備前市：3.3 県比較：▲0.3 国比較：▲0.4

<教科ごとの総問題数と正答率の関係>

【小学校】

国語…全13問（正答数1問の差＝正答率約7.7ポイントの差）

算数…全16問（正答数1問の差＝正答率約6.3ポイントの差）

【中学校】

国語…全15問（正答数1問の差＝正答率約6.7ポイントの差）

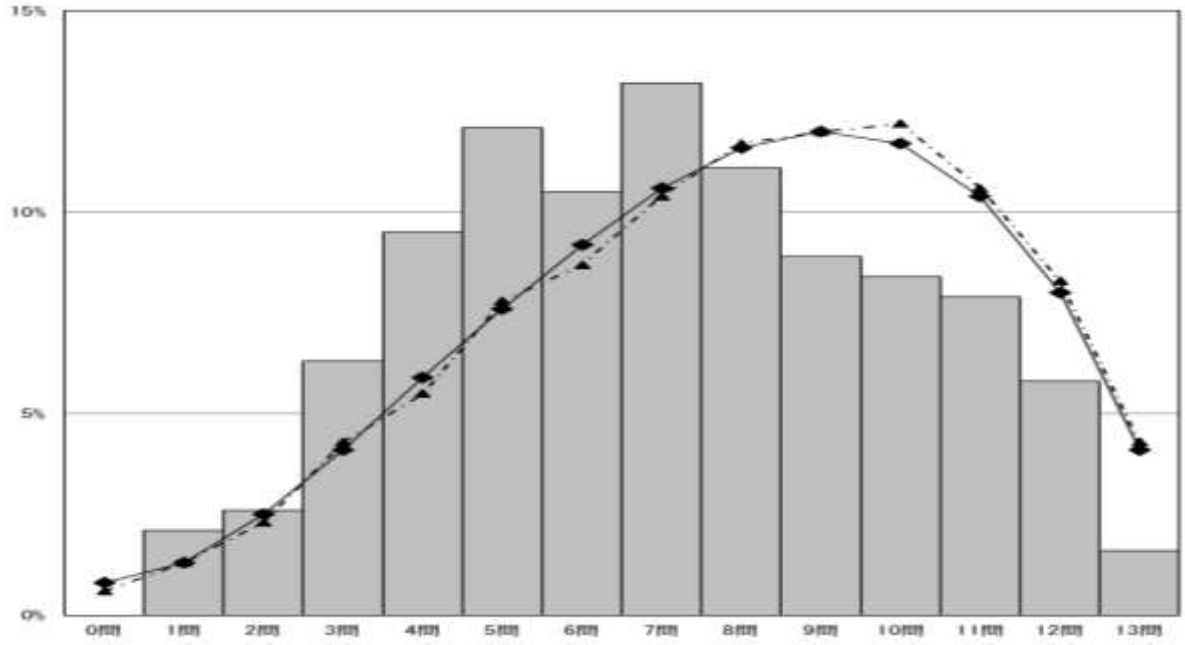
数学…全16問（正答数1問の差＝正答率約6.3ポイントの差）

(2)正答数分布[小中教科別] 縦軸:割合(%) 横軸:正答数(問)

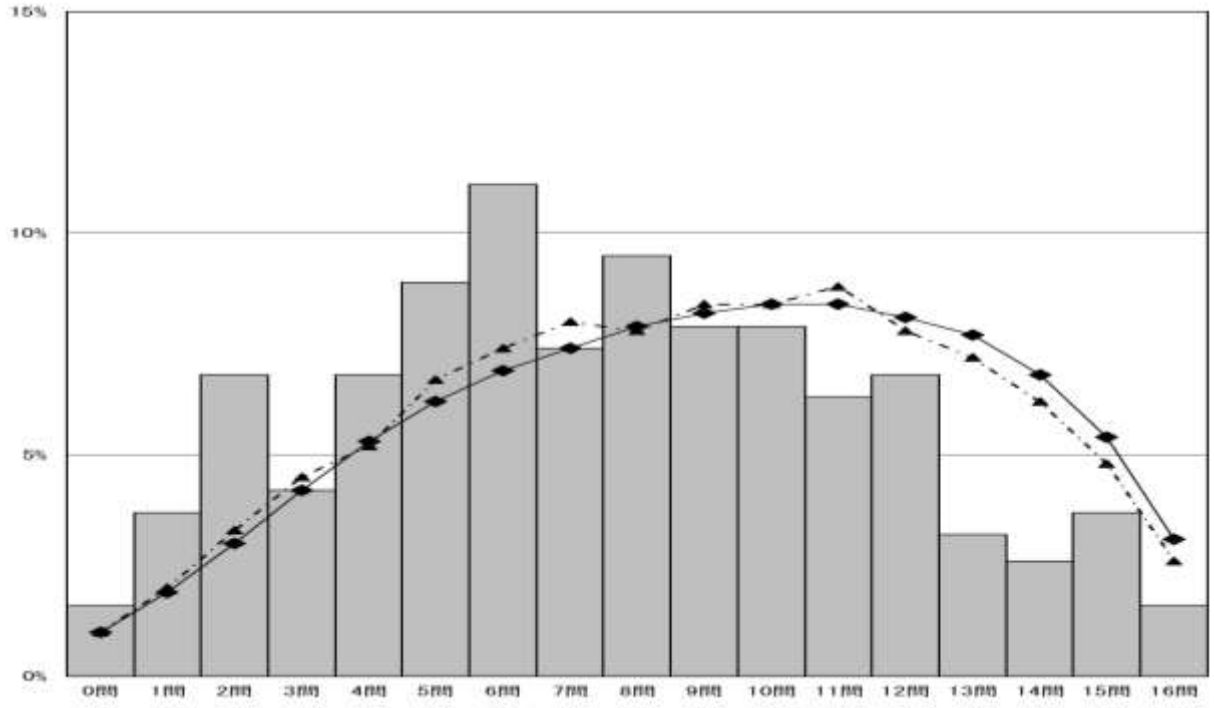
市 県 全国

【小学校】

国語

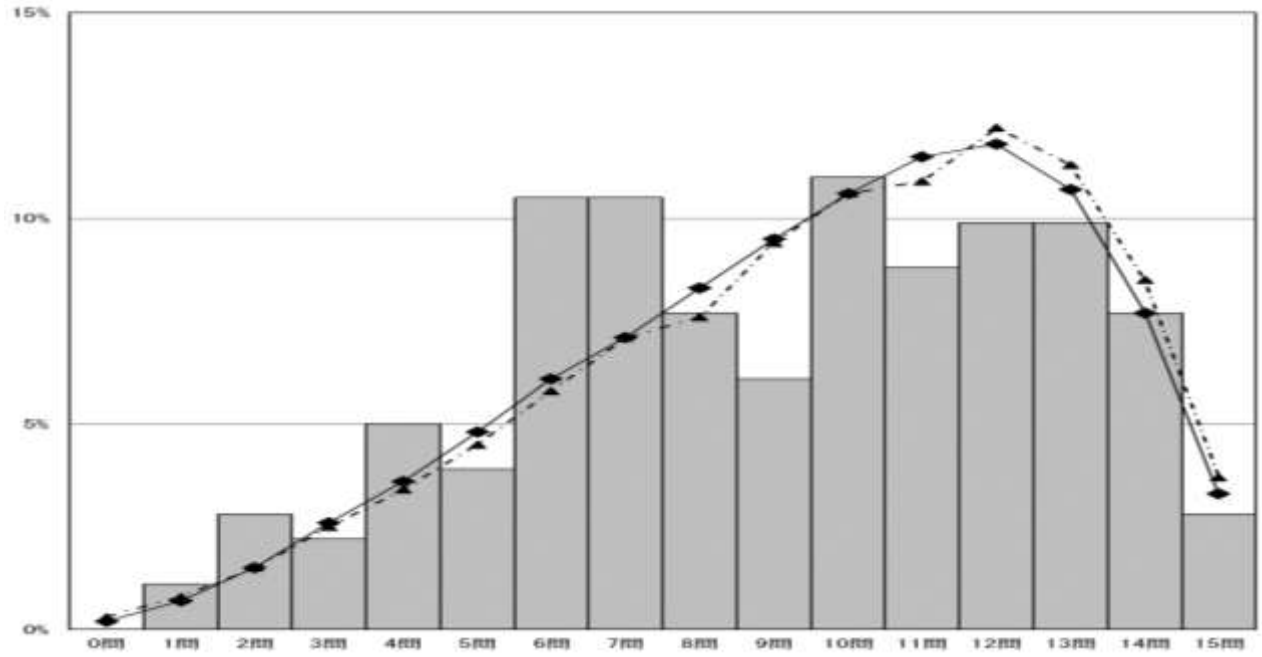


算数

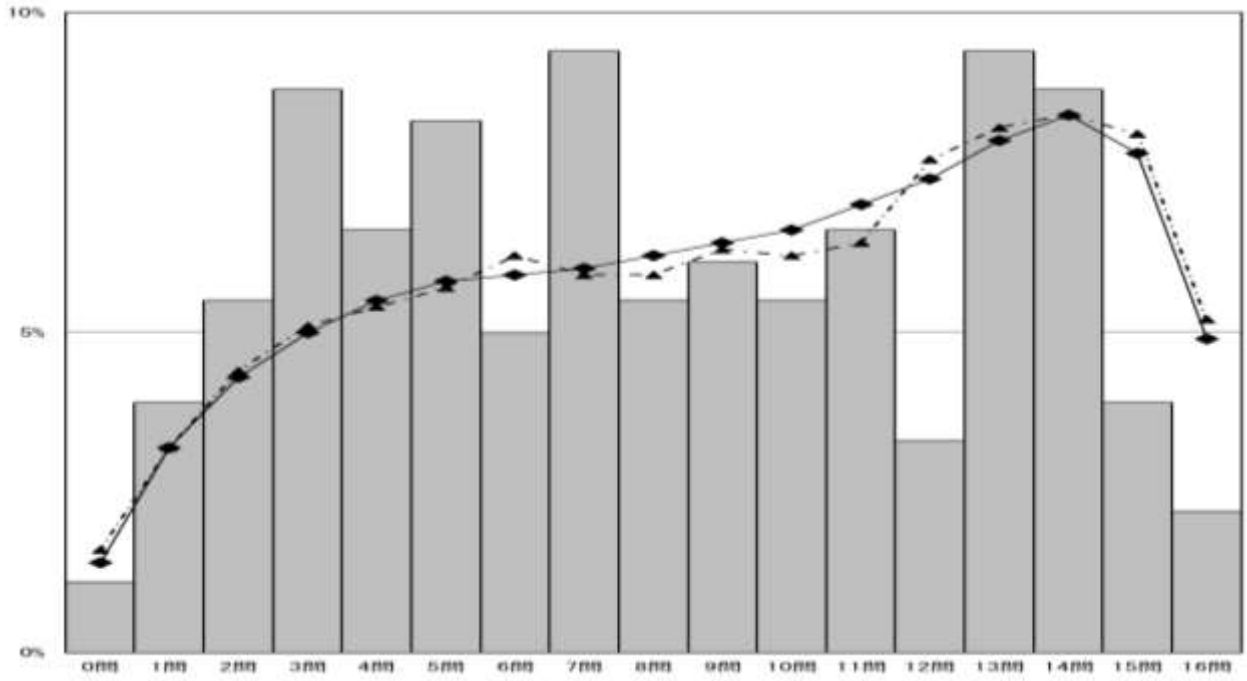


【中学校】

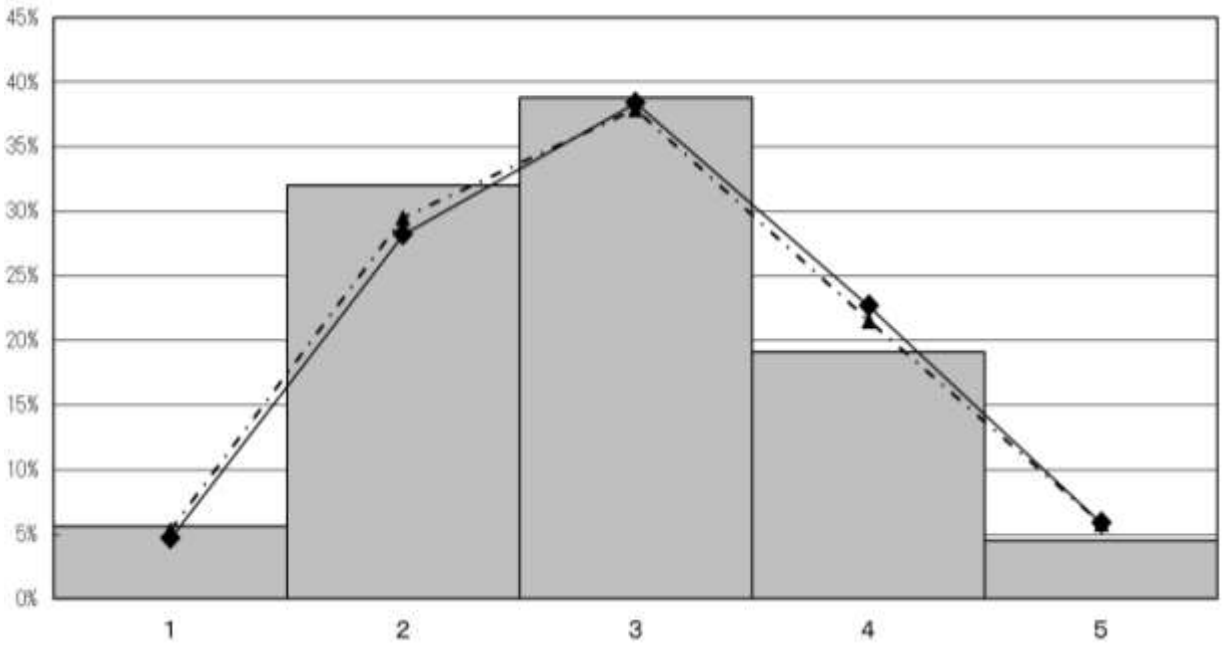
国語


15%
10%
5%
0%
0問
1問
2問
3問
4問
5問
6問
7問
8問
9問
10問
11問
12問
13問
14問
15問

数学


10%
5%
0%
0問
1問
2問
3問
4問
5問
6問
7問
8問
9問
10問
11問
12問
13問
14問
15問
16問

英語（3 技能）



【IRT バンド（1～5）について】

・IRT スコアを 1～5の5段階に区切ったもの。3を基準とし、5 が最も高いバンドとなる。

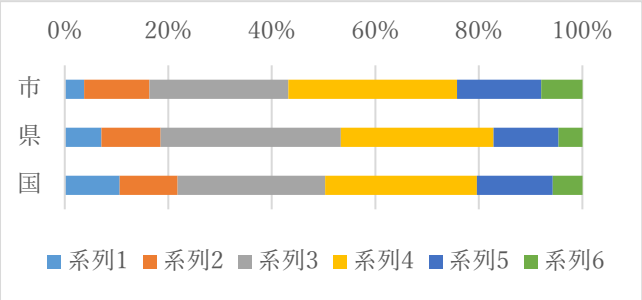
・問題の難易度は5段階で表示され、非公開問題も含めた正誤状況に基づいて分析し、事後的に付与したもも
である。

4 質問調査（主な項目のみ）

A 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
（学習塾や家庭教師、インターネットを活用した学びを含む。）

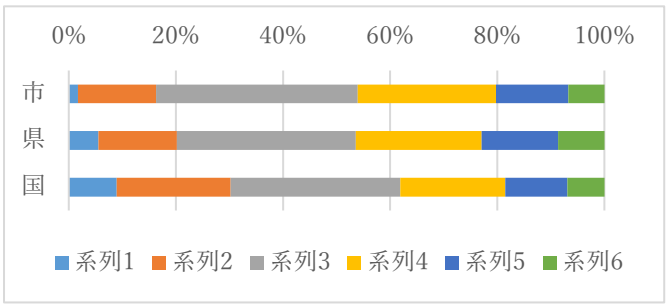
1.3時間以上　2.2時間以上3時間より少ない　3.1時間以上，2時間より少ない　4.30分以上1時間より少ない　5.30分より少ない　6.全くしない

【小学生】



	系列 1	系列 2	系列 3	系列 4	系列 5	系列 6
市	3.7	12.6	26.7	32.5	16.2	7.9
県	7.0	11.4	34.5	29.3	12.4	4.6
国	10.5	11.1	28.3	29.1	14.5	5.7
県比較	▲ 3.3	1.2	▲ 7.8	3.2	3.8	3.3
国比較	▲ 6.8	1.5	▲ 1.6	3.4	1.7	2.2

【中学生】



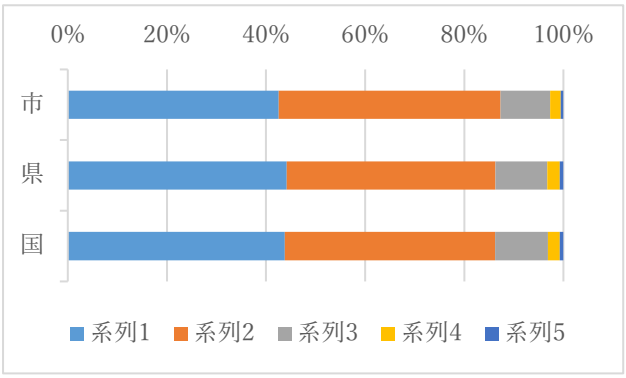
系列	系列 1	系列 2	系列 3	系列 4	系列 5	系列 6
市	1.7	14.6	37.6	25.8	13.5	6.7
県	5.5	14.6	33.2	23.4	14.2	8.6
国	8.9	21.2	31.5	19.5	11.5	6.9
県比較	▲ 3.8	0.0	4.4	2.4	▲ 0.7	▲ 1.9
国比較	▲ 7.2	▲ 6.6	6.1	6.3	2.0	▲ 0.2

A 1時間以上家庭で勉強する割合（1+2+3）は、小学生では全国より6.9ポイント、中学生では7.7ポイント下回っている。

B 学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか。

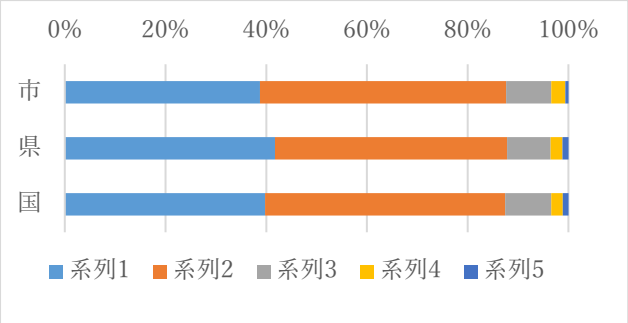
1当てはまる　2どちらかといえば、当てはまる　3どちらかといえば、当てはまらない　4当てはまらない　5学級の友達との間で話し合う活動を行っていない

【小学生】



	系列 1	系列 2	系列 3	系列 4	系列 5
市	41.9	44.0	9.9	2.1	0.5
県	43.8	41.8	10.4	2.5	0.7
国	43.5	42.2	10.6	2.4	0.7
県比較	▲ 1.9	2.2	▲ 0.5	▲ 0.4	▲ 0.2
国比較	▲ 1.6	1.8	▲ 0.7	▲ 0.3	▲ 0.2

【中学生】



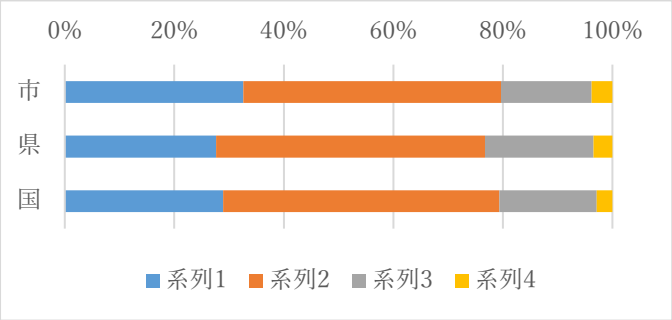
	系列１	系列２	系列３	系列４	系列５
市	38.8	48.9	9.0	2.8	0.6
県	41.5	45.9	8.6	2.3	1.2
国	39.6	47.4	9.1	2.3	1.1
県比較	▲ 2.7	3.0	0.4	0.5	▲ 0.6
国比較	▲ 0.8	1.5	▲ 0.1	0.5	▲ 0.5

B 肯定群（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の計）の割合は、小学生では全国より0.2ポイント、中学生で0.7ポイント上回っており、全国平均とほぼ同等と捉えることができる。

C 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

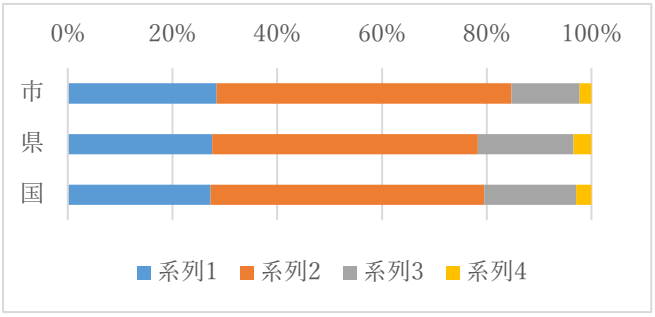
1当てはまる　2どちらかといえば、当てはまる　3どちらかといえば、当てはまらない　4当てはまらない

【小学生】



	系列１	系列２	系列３	系列４
市	31.9	46.1	16.2	3.7
県	27.1	48.2	19.4	3.4
国	28.3	49.3	17.4	2.8
県比較	4.8	▲ 2.1	▲ 3.2	0.3
国比較	3.6	▲ 3.2	▲ 1.2	0.9

【中学生】



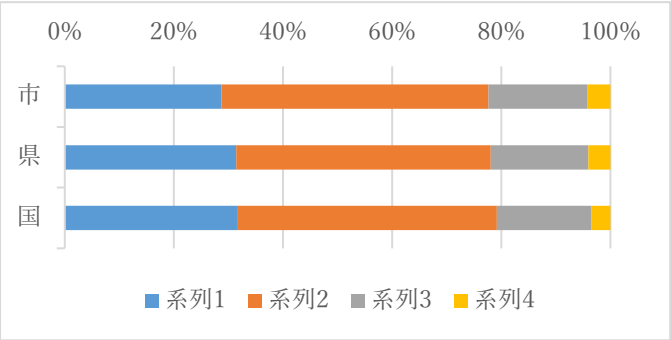
	系列１	系列２	系列３	系列４
市	28.1	55.6	12.9	2.2
県	27.3	50.3	18.1	3.4
国	27.0	51.8	17.4	2.9
県比較	0.8	5.3	▲ 5.2	▲ 1.2
国比較	1.1	3.8	▲ 4.5	▲ 0.7

C 肯定群（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の計）の割合は、小学生では全国より0.4ポイント、中学生で4.9ポイント上回っている。

D 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

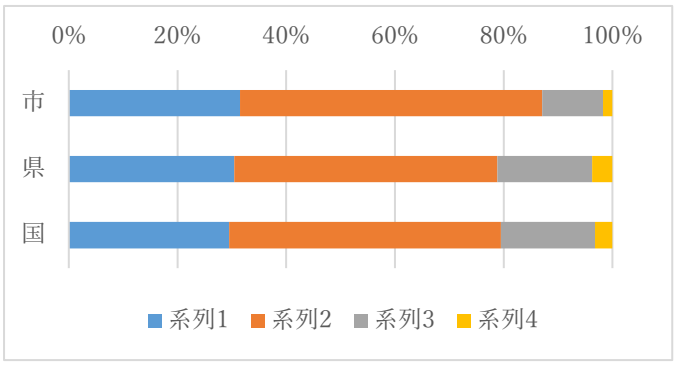
1 できている　2 どちらかといえばできている　3 あまりできていない　4 全くでていない

【小学生】



	系列 1	系列 2	系列 3	系列 4
市	28.3	48.2	17.8	4.2
県	31.1	46.2	17.7	4.0
国	31.4	47.0	17.2	3.4
県比較	▲ 2.8	2.0	0.1	0.2
国比較	▲ 3.1	1.2	0.6	0.8

【中学生】



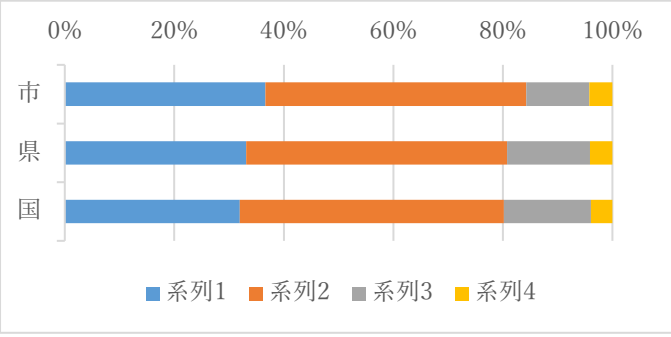
	系列 1	系列 2	系列 3	系列 4
市	31. 5	55. 6	11. 2	1. 7
県	30. 2	48. 1	17. 3	3. 7
国	29. 3	49. 7	17. 2	3. 2
県比較	1.3	7.5	▲ 6.1	▲ 2.0
国比較	2.2	5.9	▲ 6.0	▲ 1.5

D 肯定群（「できている」「どちらかといえば、できている」の計）の割合は、 小学生は全国より1．9ポイント下回り、中学生は、8．1ポイント上回っている。

E 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

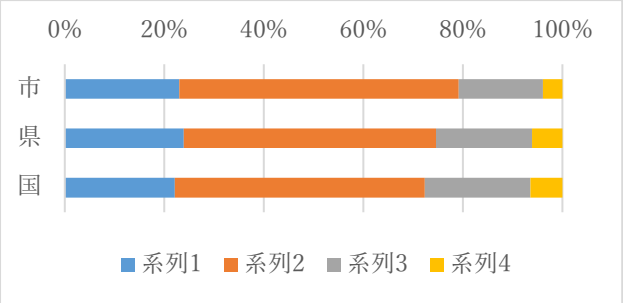
1 ある　2 どちらかといえば、ある　3 あまりない　4 全くない

【小学生】



	系列 1	系列 2	系列 3	系列 4
市	36.6	47.6	11.5	4.2
県	33.1	47.6	15.1	4.1
国	31.9	48.2	15.9	3.9
県比較	3.5	0.0	▲ 3.6	0.1
国比較	4.7	▲ 0.6	▲ 4.4	0.3

【中学生】



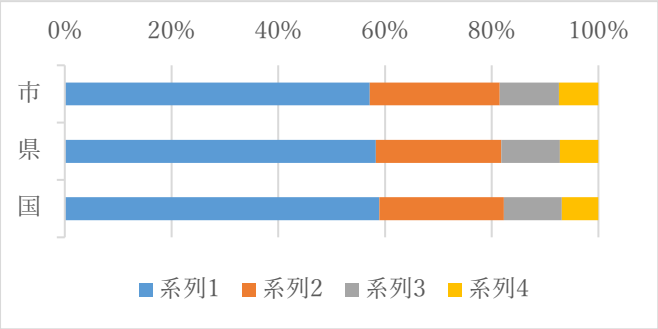
系列	系列１	系列２	系列３	系列４
市	23.0	56.2	16.9	3.9
県	23.9	50.6	19.3	6.1
国	22.1	50.2	21.2	6.4
県比較	▲ 0.9	5.6	▲ 2.4	▲ 2.2
国比較	0.9	6.0	▲ 4.3	▲ 2.5

E 肯定群（「ある」「どちらかといえば、ある」の計）の割合は、小学生は全国より4.1ポイント、中学生は6.9ポイント上回っている。

F 将来の夢や目標を持っていますか。

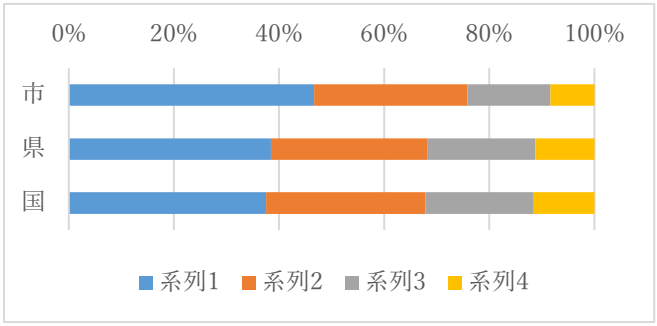
1 そう思う　2 どちらかといえば、そう思う　3 あまりそう思わない　4 全そう思わない

【小学生】



	系列１	系列２	系列３	系列４
市	56.5	24.1	11.0	7.3
県	58.0	23.4	10.9	7.2
国	58.6	23.2	10.8	6.8
県比較	▲ 1.5	0.7	0.1	0.1
国比較	▲ 2.1	0.9	0.2	0.5

【中学生】



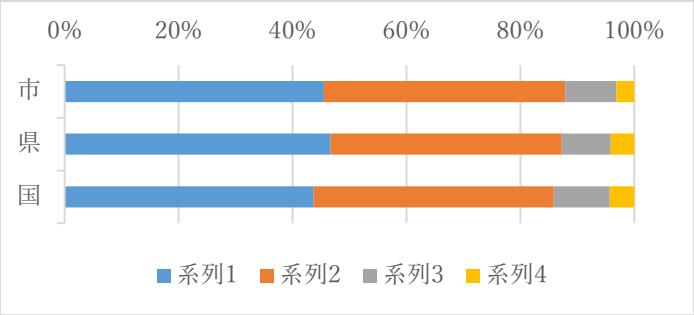
	系列１	系列２	系列３	系列４
市	46.6	29.2	15.7	8.4
県	38.3	29.6	20.5	11.2
国	37.4	30.2	20.5	11.5
県比較	8.3	▲ 0.4	▲ 4.8	▲ 2.8
国比較	9.2	▲ 1.0	▲ 4.8	▲ 3.1

F 肯定群（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の計）の割合は、小学生は全国より1.2ポイント下回り、中学生は8.2ポイント上回っている。

G 自分には、よいところがあると思いますか。

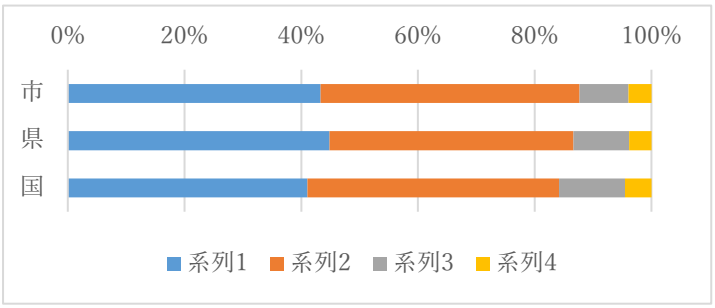
1 そう思う　2 どちらかといえば、そう思う　3 あまりそう思わない　4 全そう思わない

【小学生】



	系列 1	系列 2	系列 3	系列 4
市	45.0	41.9	8.9	3.1
県	46.5	40.4	8.6	4.1
国	43.6	42.0	9.8	4.3
県比較	▲ 1.5	1.5	0.3	▲ 1.0
国比較	1.4	▲ 0.1	▲ 0.9	▲ 1.2

【中学生】



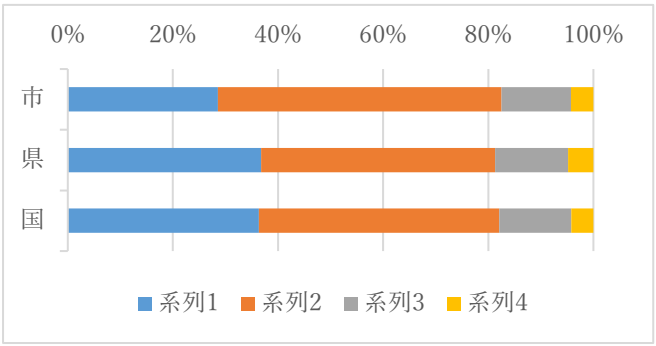
	系列 1	系列 2	系列 3	系列 4
市	43.3	44.4	8.4	3.9
県	44.7	41.7	9.5	3.8
国	41.0	43.0	11.3	4.5
県比較	▲ 1.4	2.7	▲ 1.1	0.1
国比較	2.3	1.4	▲ 2.9	▲ 0.6

G 肯定群（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の計）の割合は、小学生は全国より1.3ポイント、中学生は3.7ポイント上回っている。

H 国語の授業の内容はよくわかりますか。

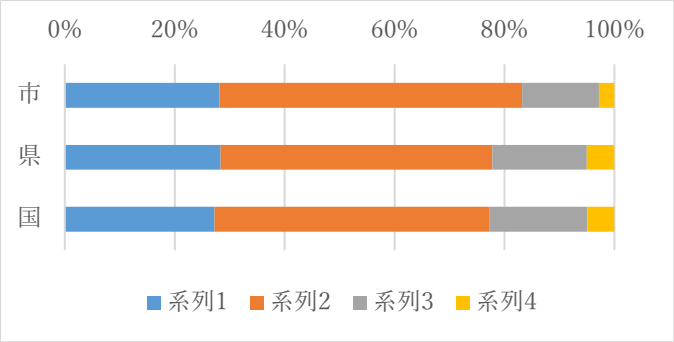
1 当てはまる　2 どちらかといえば、当てはまる　3どちらかといえば、当てはまらない　4 当てはまらない

【小学生】



	系列 1	系列 2	系列 3	系列 4
市	28.3	53.4	13.1	4.2
県	36.5	44.2	13.8	4.8
国	36.1	45.4	13.6	4.2
県比較	▲ 8.2	9.2	▲ 0.7	▲ 0.6
国比較	▲ 7.8	8.0	▲ 0.5	0.0

【中学生】



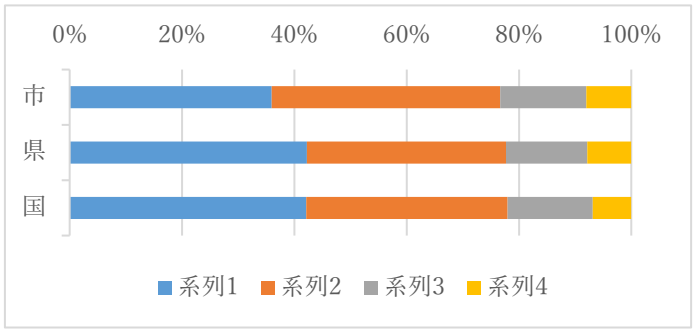
	系列１	系列２	系列３	系列４
市	28.1	55.1	14.0	2.8
県	28.2	49.2	17.1	5.0
国	27.1	49.7	17.8	4.9
県比較	▲ 0.1	5.9	▲ 3.1	▲ 2.2
国比較	1.0	5.4	▲ 3.8	▲ 2.1

H 肯定群（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の計）の割合は、小学生は全国より0.2ポイント、中学生は6.4ポイント上回っている。

I 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

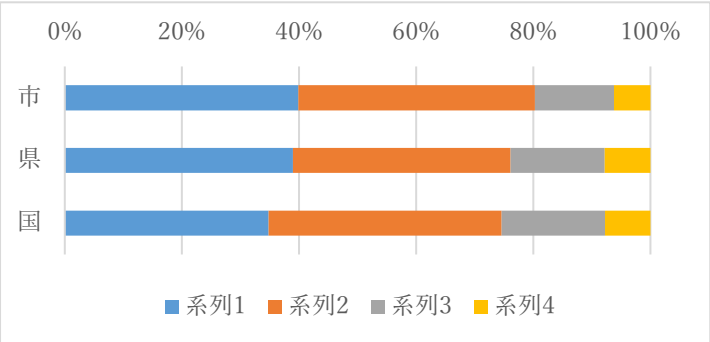
1 当てはまる　2 どちらかといえば、当てはまる　3どちらかといえば、当てはまらない　4 当てはまらない

【小学生】



	系列１	系列２	系列３	系列４
市	35.6	40.3	15.2	7.9
県	42.0	35.2	14.4	7.8
国	41.9	35.6	15.1	6.8
県比較	▲ 6.4	5.1	0.8	0.1
国比較	▲ 6.3	4.7	0.1	1.1

【中学生】



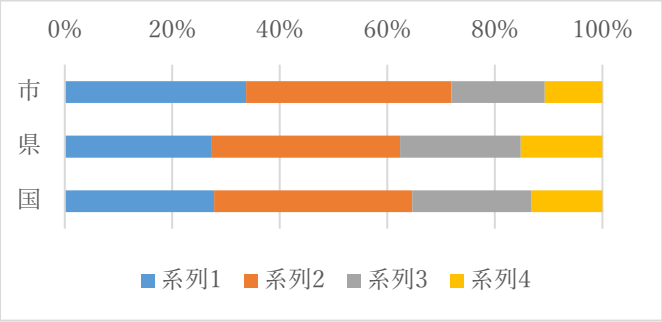
	系列１	系列２	系列３	系列４
市	39.9	40.4	13.5	6.2
県	38.8	37.0	16.0	7.8
国	34.6	39.6	17.6	7.7
県比較	1.1	3.4	▲ 2.5	▲ 1.6
国比較	5.3	0.8	▲ 4.1	▲ 1.5

I 肯定群（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の計）の割合は、小学生は全国より1.6ポイント下回り、中学生で6.1ポイント上回っている。

Ｊ 英語の授業の内容はよく分かりますか。

１ 当てはまる　２ どちらかといえば、当てはまる　３どちらかといえば、当てはまらない　４ 当てはまらない

【中学生】



	系列１	系列２	系列３	系列４
市	33.7	38.2	17.4	10.7
県	27.2	34.8	22.3	15.1
国	27.6	36.6	22.0	13.1
県比較	6.5	3.4	▲ 4.9	▲ 4.4
国比較	6.1	1.6	▲ 4.6	▲ 2.4

Ｊ 肯定群（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の計）の割合は、中学生では全国より7.7ポイント上回っている。